

# 経済経

彦根高商に始まる、

# 営研究

教育、調査、研究の1世紀

# 所百年



しがだい資料展示コーナー企画展  
「経済経営研究所百年紀  
—彦根高商に始まる、教育、調査、研究の1世紀—」  
発行日：2023年7月7日  
編集・発行：滋賀大学経済経営研究所  
〒522-8522 彦根市馬場 1-1-1  
TEL 0749-27-1047 E-mail ebr@biwako.shiga-u.ac.jp

会期：7月7日（金）～2024年3月28日（木）

第1期：「教育と修学の百年」  
7月7日（金）～9月29日（金）

第2期：「調査と研究の百年」  
10月3日（火）～12月26日（火）

第3期：「高商の研究機関の比較史」  
2024年1月4日（木）～3月28日（木）

# 経済経営研究所百年紀

—彦根高商に始まる、教育、調査、研究の1世紀—

開催期間▶2023年7月7日(金)～2024年3月28日(木)

第1期「教育と修学の百年」 7月7日(金)～9月29日(金)

第2期「調査と研究の百年」 10月3日(火)～12月26日(火)

第3期「高商の研究機関の比較史」 1月4日(木)～3月28日(木)

本企画展は、滋賀大学経済経営研究所が100周年を迎えることを記念して開催します。

滋賀大学経済経営研究所は、1923年9月に旧制彦根高等商業学校に設置された調査課を母体としています。新制国立大学の設置以降は、滋賀大学経済学部の附属施設として、一貫して資料の収集と管理に取り組み、研究と教育のサポートに励んできました。

長い歴史のなかで収集された資料は貴重なものが多く含まれています。今回の展示は、それらの資料を取り上げ、世界や社会情勢のなかでどのような資料が収集され、受け継がれ、評価されてきたのかを、3期に分けて、写真やパネルで紹介します。

2023年7月

監修▶阿部安成(あべやすなり)  
(本学経済学部教授、専門は日本近代社会史)

## 第1期「教育と修学の百年」

学校も大学も、それを構成する主体は生徒や学生です。

とはいえ、生徒も学生も、みずからの気の向くままに、好き勝手に学べばよいわけではありません。必修科目があり選択科目があり、履修すべき教科の大枠は学校や大学が決めています。

生徒も学生も、学校や大学の主体でありながら、履修の規程に従わなくてはならない受講者でした。

そうした生徒や学生にとって、かつていままも、論述することは決して容易な修学ではなかったようすがうかがえます。

彦根高等商業学校においても、滋賀大学の経済学部や大学院経済学研究科においても、生徒や学生が論述をする教科があります。

この第1期では、彦根高等商業学校に始まるこの百年の教育と修学の記録——学校が提供する教科、そのもとで生徒が執筆した原稿、「高度専門職業人」や「グローバル・スペシャリスト」としての学位を修得するための論文を展示しました。

生徒にとっても学生にとっても、論述するために欠かせない場所として、附属図書館があります。かつての附属図書館のようすも、ここに展示しました。

また、この彦根キャンパスにはかつて、経済短期大学部がありました。そのようすをいまに伝える手立てとして、卒業アルバムがあります。百年におよぶこのキャンパスでの、教育と修学の一端をご覧ください。



2003年度大学院博士後期課程設置記念式典  
(滋賀大学経済学部・データサイエンス学部共通事務部提供)

2001年度に滋賀大学大学院経済学研究科グローバル・ファイナンス専攻(博士前期課程)での、2003年度から同大学院博士後期課程経済経営リスク専攻での教育と研究が始まりました。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)は、前者が、「滋賀大学大学院経済学研究科博士前期課程では、下記の条件を満たした者に修士(経済学、経営学又はファイナンス)の学位を授与します。／1. 専攻分野に関わる概念、理論、仮説、実証的根拠などを体系的に修得し、最新の研究動向にもキャッチアップできる、専門性を備えている。／2. 研究テーマや実践的課題について、理論的・実証的に思考し、意思決定したり、問題解決に導いたりできる、課題探求力を備えている。／3. 専攻分野とは異なる視点からも、問題を解釈したり、アイデアを発想したり、さらに関係者とコミュニケーションできる、高度専門職業人としての見識・教養を備えている。」をあげ、後者では、「滋賀大学大学院経済学研究科博士後期課程では、下記の条件を満たした者に博士(経済学又は経営学)の学位を授与します。／1. 経済学ないし経営学における専門的知見及びリスクについて体系的に修得し、最先端の研究動向にもキャッチアップできる、専門性を備えている。／2. 研究テーマや実践的課題について、専門分野及びリスクの視点から理論的・実証的に思考し、意思決定したり、問題解決に導いたりできる、高い課題探求力を備えている。／3. 専門分野に関わるリスク分析やリスク管理において指導的役割を果たせる、リスク・リサーチとしての能力及び見識・教養を備えている。」と掲げています。

国立大学法人滋賀大学学位記規程では、その第8条「修士の学位論文又は特定の課題についての研究成果(以下「修士論文等」という。)は、研究科長に提出するものとする。」と、第19条「学位の授与を受けようとする者は、博士論文、論文目録、論文内容の要旨及び履歴書を添えて、研究科長を経て学長に提出しなければならない。」と定めています。

2023年7月までに提出され、滋賀大学経済経営研究所で保管している学位論文は、修士論文1138編、博士論文24編です。



2020年度滋賀大学大学院研究科学位記授与式  
(滋賀大学広報課提供)



2021年度滋賀大学大学院研究科学位記授与式  
(滋賀大学広報課提供)



「図書館内部」  
『SOUVENIR 1926』彦根高等商業学校卒業アルバム。  
滋賀大学経済経営研究所デジタルアーカイブ)



「学生食堂」  
『SOUVENIR 1926』彦根高等商業学校卒業アルバム。  
滋賀大学経済経営研究所デジタルアーカイブ)



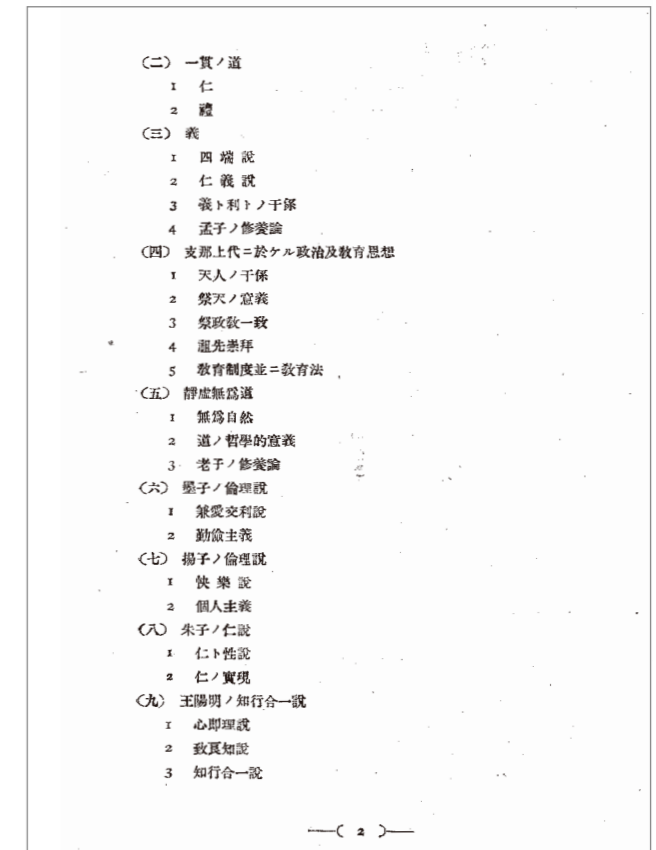
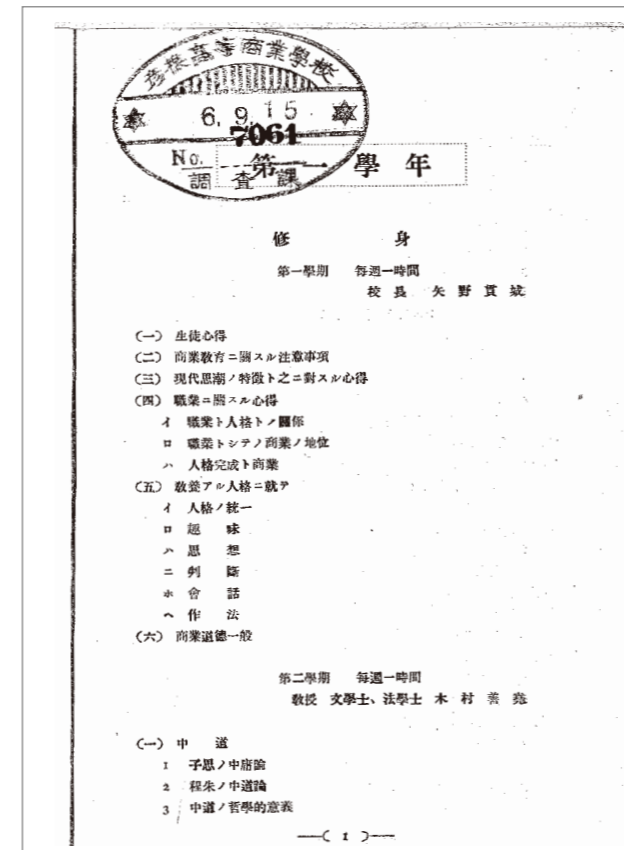
「図書館閲覧室」  
『FLA MEMORIA 1927』彦根高等商業学校卒業アルバム。  
滋賀大学経済経営研究所デジタルアーカイブ)



「古本漁り」  
『FLA MEMORIA 1933』彦根高等商業学校卒業アルバム。  
滋賀大学経済経営研究所デジタルアーカイブ)

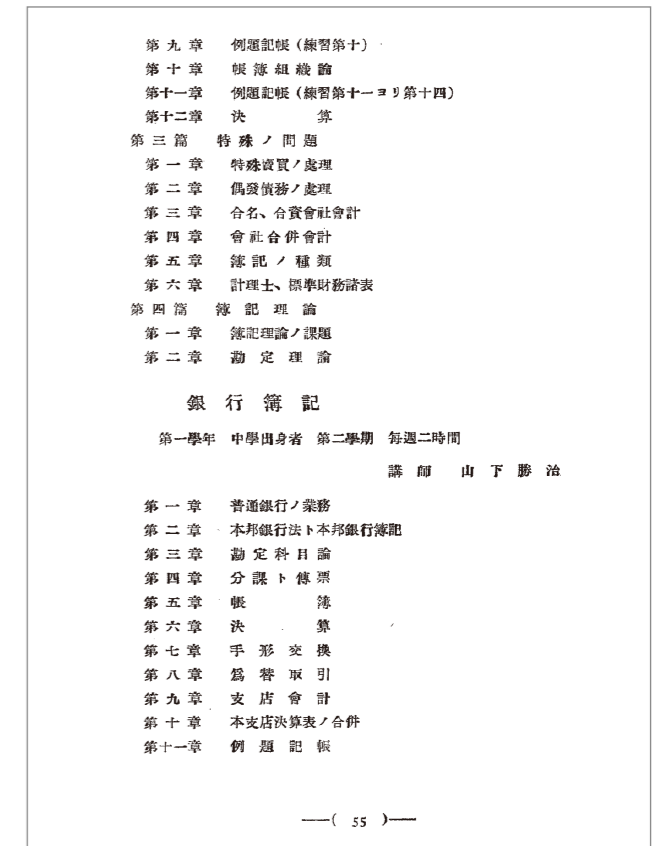
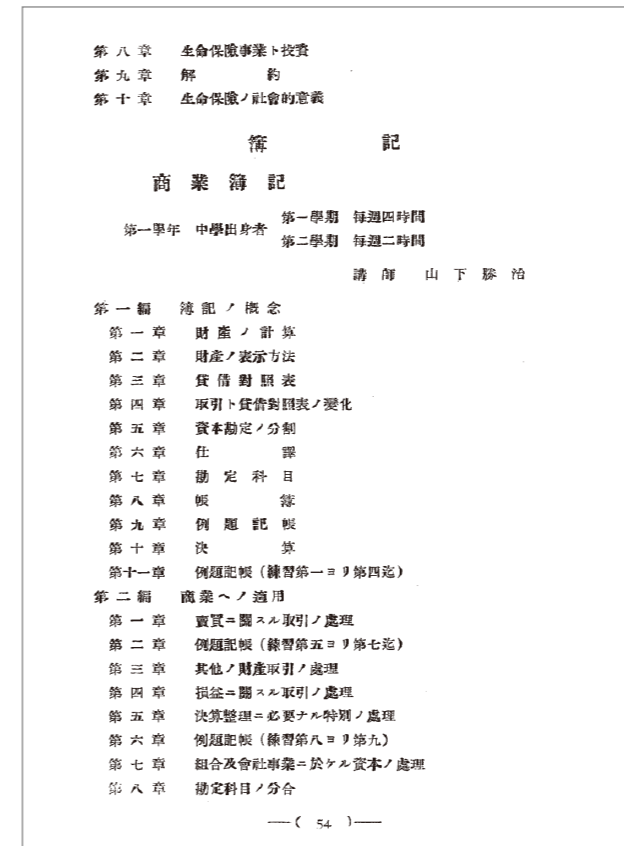


正門に見える「滋賀大学経済短期大学部」の名称と附属図書館棟  
(滋賀大学経済短期大学部第5回1960卒業記念アルバム、滋賀大学経済学部第11回1963卒業記念アルバム。  
滋賀大学経済学部所蔵)



矢野貫城、木村善堯「修身」(『昭和五年度 教授要目 彦根高等商業学校』  
滋賀大学経済経営研究所所蔵)

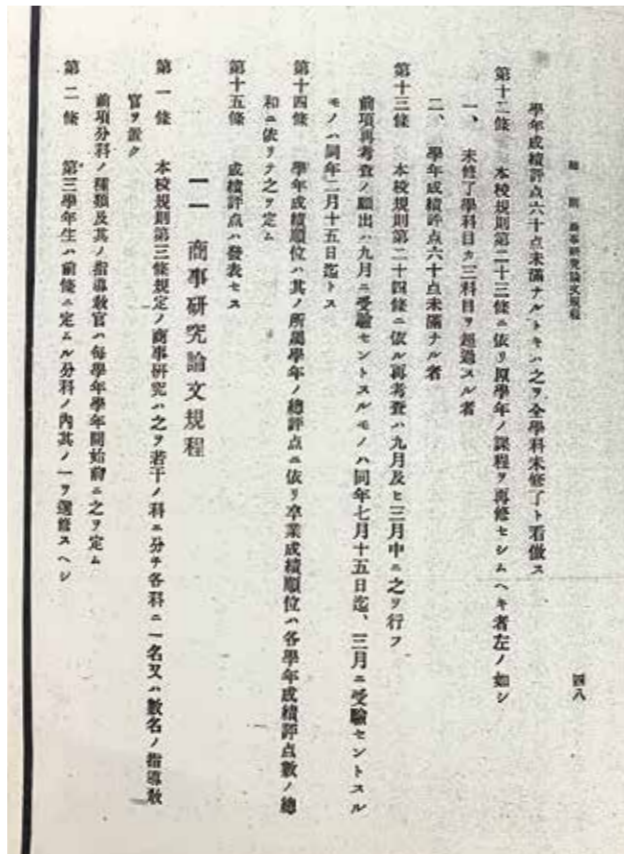
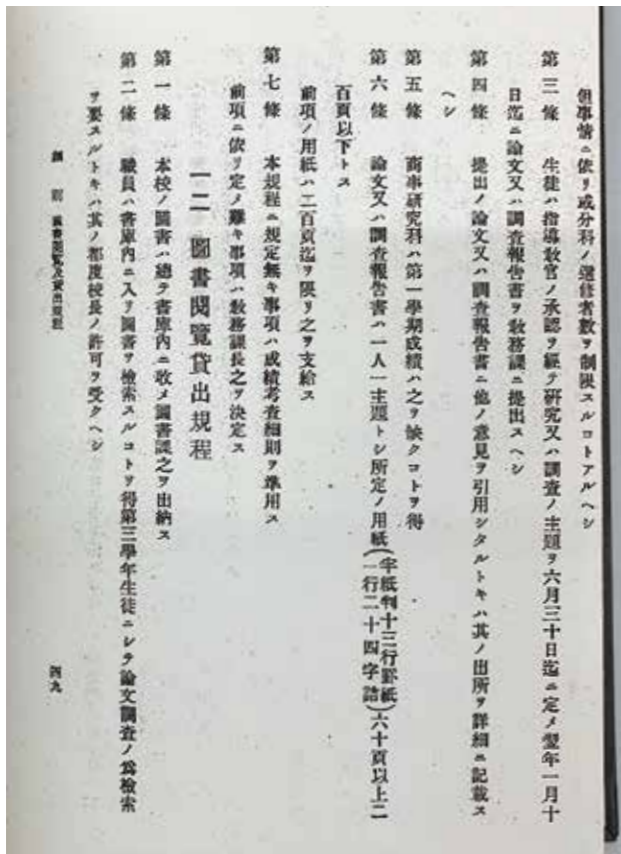
現在のシラバスや講義概要は、彦根高等商業学校当時は、「教授要目」とよばれていました。記載内容が事細かに指示され、文字数もおおよそが決められている現在のシラバスとくらべると、かつてはずいぶんとおおまかな内容だったといえるでしょう。



山下勝治「商業簿記」(『昭和十年度 教授要目 彦根高等商業学校』  
滋賀大学経済経営研究所所蔵)

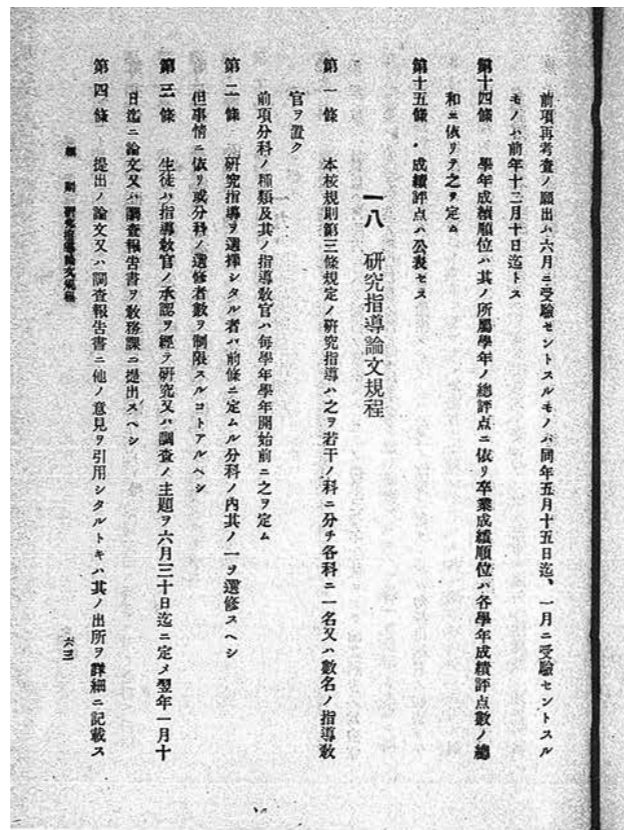
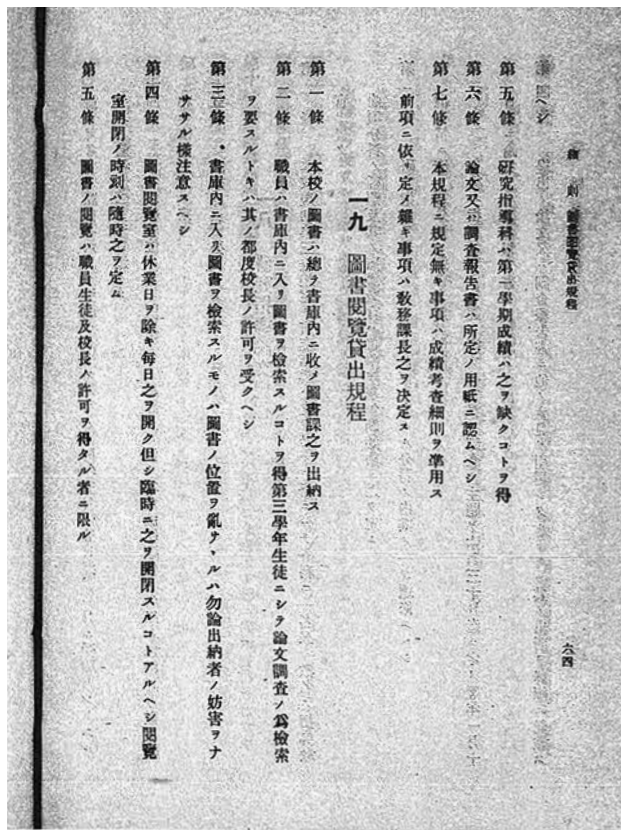
かつて彦根キャンパスには、滋賀大学経済短期大学部がありました。1953年度に80名で始まった学生定員は1967年度から120名に増え、1993年度をもって学生募集停止。1992年度までの卒業生数は約3200名を数えます。

上段に掲げた「修身」を担当した矢野貫城はつらきこのとき、彦根高等商業学校の第2代校長でした。下段においた「商業簿記」の担当教官山下勝治は、のちに、『原価価格計算』(千倉書房、1942年)を出版します。



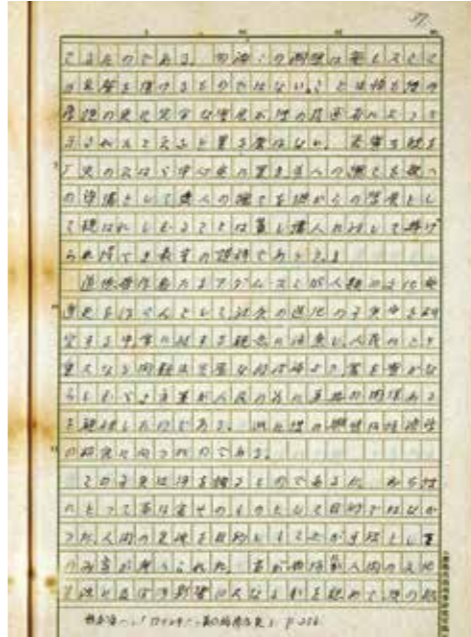
「商事研究論文規程」(『彦根高等商業学校一覽 第二年度 自大正十三年至大正十四年』滋賀大学経済経営研究所所蔵)

彦根高等商業学校では、生徒にいくつかの論文執筆を課す教科がありました。「商事研究」は、第3学年の第1学期と第2学期の不定時開講で、24字×13行の半紙版で60頁以上200頁以下の分量の、論文または調査報告書の提出が定められていました。400字詰め原稿用紙換算46.8枚～156枚。



「研究指導論文規程」(『彦根高等商業学校一覽 第四年度 自大正十五年至大正十六年』滋賀大学経済経営研究所所蔵)

「研究指導」は、第3学年の第1学期と第2学期に開講された選択科目でした。「商事研究論文」も「研究指導論文」もともに、「他の意見を引用したときは其の出所を詳細に記載すべし」(原文は漢字カタカナ)と、資料や参考文献の明示が厳格に指示されていました。



郷原高治「アダム・スミスと経済学—道徳情操論と国富論との脈絡に就て」(彦根高等商業学校生徒手書き論文。滋賀大学経済経営研究所所蔵)

生徒執筆論文「アダム・スミスと経済学」は、河合栄治郎『社会思想史研究』第一巻(岩波書店、1923年)、河上肇『資本主義経済学史的発展』(弘文堂書房、1923年)、竹内謙二『アダム・スミス研究』(有斐閣、1926年)、杉村広蔵『経済学方法史』(理想社出版部、1938年)、ロツシャー著、杉本栄一訳『英国経済学史論』(同文館、1929年)(いずれも本学附属図書館所蔵)を「参考文献」とした卒業論文とおもわれる提出原稿です。



山下勝治教授に提出された卒業論文とおもわれる「暖簾の研究」は、「暖簾の本質に関して最も正当と考へらるゝものは、暖簾無形資産の典型であり其の核心をなす消費者の好意が時間的場所的に該営業と密接不離の関係を結び、為に同種の他の営業に於てよりは遙かに大なる利益が獲得される。——超過利益の源泉——見込或は可能性なりと言ふ事が出来ると思ふ。」と「暖簾の本質」を説きました(原文は漢字カタカナ)。

神田次雄「暖簾の研究」(彦根高等商業学校生徒手書き論文。滋賀大学経済経営研究所所蔵)

